

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 4月 15日

事業所名 きらめき古堅

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			人数と活動内容、天候に合わせて空間を調整している。	定員に合わせて小集団の部屋も利用出来る様に環境を整備していきます。
	2	職員の配置数は適切である	7			児童の人数にや特性に応じてシフトを決めている。	急な職員の休みでも対応できるように、安全を第一に考えて空間や活動内容の変更が出来る体制を整えます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	3		スロープや階段の手すり、洗面所の踏み台を設置している。	雨天時に玄関の外側タイルおよび正門と道路間の傾斜鉄板が滑りやすい為、滑り止めゴムで改善する予定。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2		事業所会議と終礼で1日の様子を話し合っている。	当日欠席の職員へも翌日に確認できるように申し送り帳への記入と口頭でも情報共有をしていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2		保護者の意見などを職員で共有している。	送迎時に保護者の意向を直接聞き取りするように各職員の意識を高めていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	1		年度始めの4月にホームページの古堅事業所未尾に掲載しているため、周知していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	1	1		第三者は設置していない。まずは、保護者からのご意見権を参考に改善を図る。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			研修動画を視聴している。	社内で月4回研修があり、社外ではティーチャーズトレーニングを全職員が受講出来る様取り組んでいる。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7				職員全員がモニタリング会議に出席して目標に対する支援内容が主観的評価とならないようにしていきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3	1	児童の特性に合ったツールを検討し使用する必要がある。	特性にあった評価表を選考して適応行動の状況把握に努めていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	4		活動内容は各自で任せているが、ケア会議で話し合うのも重要である。	各々職員に任せているが、活動内容を振り返り改善点があれば、その都度話し合っていきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	2			必要なプログラムは繰り返し取り入れ、児童の反応を見ながら楽しめるようアップデートしていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	2		利用時間によって複数の活動を取り入れている。	利用時間帯に応じて、運動遊びや着座で静かに過ごす課題を組み合わせしていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成している	3	4		個別活動の内容を吟味する必要がある。	計画書作成時には具体的に集団活動と個別活動を意識して支援内容を記載する様に意識していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1		概ねできている。	朝礼や昼礼で活動内容と個別支援および役割分担を確認する事を習慣化していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		各児童の関わり方について振り返りをしているが、不十分な部分もあった。	児童各々の言動から、その日の状態を振り返り情報共有する事で、先々の支援方法に繋げられるようにしていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	5		個別支援内容に沿った記録が大切。全体ノートで出来事を共有している。	日報記入時の内容が児童の課題に応じたものとなるように徹底改善していきます。
関係機関 や保護者	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1		みんなで評価している。	継続して担当者会議前と事業所内モニタリング会議で日々の支援を振り返り計画を見直していきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	4	2	1		基本活動を確認周知する事で活動を組み合わせ、PDCAサイクルを実践していく。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1			児童福祉分野で職務経験が5年以上ある管理者が参加している。参加前に現場の職員からも事前に情報を収集して臨んでいる。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	3			学校行事等で予定変更がある際は保護者からの連絡が主だが下校迎え時に学校からも情報を聞きとっていきます。迎え時間の遅れなどは学校に電話で連絡をしていきます。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
との 連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	2		保護者を通じて情報共有している。	薬の投与などが必要な児童においては、保護者から主治医意見書のコピーを頂いているが、個別の緊急時対応マニュアルを作成して安心して受け入れ出来る体制を作っています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	3			担当者会議および保護者からの事前聞き取りや見学・体験利用などで相互理解を図り、安心して利用開始出来る様に努めています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	2	1	現在は対象者なし。	必要に応じて、相談員等に支援記録やアセスメント等の情報提供を行っています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	3			ZOOM研修を含めて多方面からの研修を選考し、積極的に受講しやすい環境を作っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	2	コロナで難しい	感染状況を見ながら、交流出来る機会が持てるように情報収集を図っていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	3	3	自治体の連携会議に参加している。	シフト調整を図り、参加出来る体制を作っていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	2		連絡帳、申し送り、モニタリング、メールで共有している。	送迎時にも状況を伝え合えるように、時間の余裕を作っていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2		チラシができた時に参加しそうな保護者にすすめ、情報共有している。	ペアレントトレーニングの案内や健康や行動面に関する対応方法の情報共有、提供を実施していきます。
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	4		モニタリング等で確認、説明している。	利用前に契約書で説明し、確認できるように互いに所有している。必要に応じて説明を実施していきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2		本児の様子を見てアドバイスしている。可能な範囲で情報提供と助言を行っているが不十分な点がある。	適切な支援の方向性を知るため、家庭では見せない児童の様子を随時報告し、モニタリング会議や希望に応じて個別面談を設けていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3	4	コロナで難しい	ZOOM交流を企画していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1		苦情や指摘について個別事案の場合は周知していない。	管理者が窓口となって必要に応じて、電話や直接聞き取り必要に応じて報告書の提出をしていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	2		月間活動表、写真館を発信している。	継続して活動表や連絡帳およびメールで発信しますが、必要に応じてその他ツールの活用を検討します。
	35	個人情報に十分注意している	6	1		情報の保管場所の設置、メールでの注意点を共有し実現出来ている。	ブログやパンフレットの写真掲載等の同意を得て細心の注意を図り、書類や動画の保管にも注意します。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1		ジェスチャーや絵カードなどで配慮している。	特性に応じた伝達手段を取り入れていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	1	2	4	コロナで難しい	地域に関わられた企画内容を考えていきます。
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	3	3	保護者へは周知不十分	職員・保護者への周知を実施していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			活動に取り入れているが、複数回でも良いのでは	各種災害に対する訓練を定期実施します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7				研修以外にも、場面や言葉づかいを含めた日々の確認を職員間で話し合っていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	3	3	拘束する児童はいない。事前説明はしていない。	現時点において、同意書はすでに作成しているが、該当児童はなし。しかし、やむおえず、該当児童が発生した場合、保護者に説明し理解を図っていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		共有できている。	必要に応じて指示書の提出願いや保護者確認を行い職員間での報連相を強化します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7				事業所会議等で早急な情報共有・対策を図ります。